ひきセン通信 2020 第2号

ひきセン通信は新潟市ひきこもり相談支援センターが発行する不定期刊行物です

新潟市ひきこもり相談支援センター（通称ひきセン）はひきこもっているご本人やご家族の方が最初に相談できる窓口として 2011 年 8 月に開所しました。「来所面談」、「訪問支援」、「居場所」等を実施する新潟市委託の支援機関です。利用料はかかりません。

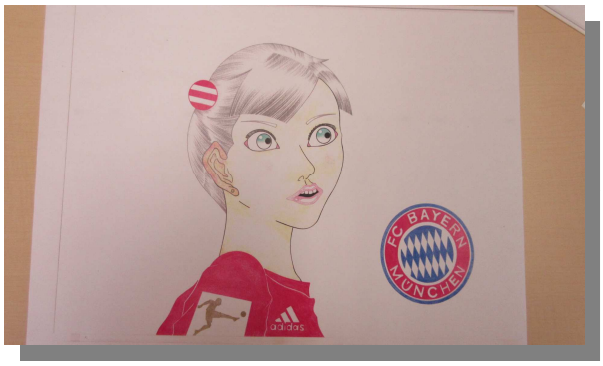
みなさんこんにちは。早いもので今年度のひきセン通信は最終号を迎えました。と言いつつ、不定期刊行物らしくしばらくすると次号が発行されます＾＾さて今回は、芸術の秋！の季節ではありませんが、秋にも負けない HOT で素敵な写真をゲットしたので紹介します。下記の作者コメントと併せてごらんください＾＾　なんと全て鉛筆描きです！！

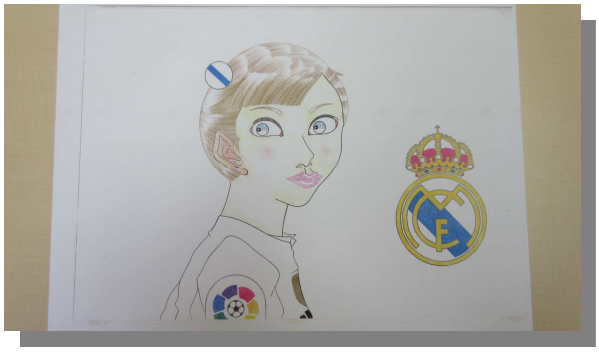
作者の声！

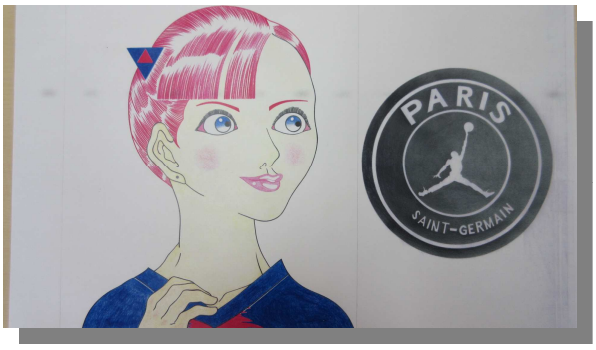
作者Ａ氏（30代男性　センター利用歴：7か月）

サッカーの競技経験はほぼゼロに等しいのですが、高校時代に世界地理を勉強するための教材として活用していたことで少々詳しくなりました。ユニホームを着用している人物はエンブレムのデザインを素に擬人化したものであったり、現地に行けば実際にいるかもしれないような人を勝手に創作したもので、とくにこれといったルールや決まりはありません。エンブレムは文房具以外にもシングルCDやじゃがりこの空き容器やプリングルスの半透明のふた、親戚からお歳暮で頂いたネスカフェのビンのふたなど様々なアイテムを駆使して描きました。

ご協力ありがとうございました！







新型コロナウイルス（COVID-19）について

正しい情報とそれによる正確な行動により、一日も早い個人の回復と安心して生活できる日が来ることを願っています。新潟市ひきこもり相談支援センターは通常業務を実施しますが、業務内容の変更や連絡等がある際には随時 HP やブログにて報告させていただきます。（https://www.n-hikisen.com/）

日本では全国の小中高特別支援学校に休校要請が出されました。先日、イタリアで同じく休校になった高校の校長先生が生徒に宛てたという手紙の日本語翻訳を目にしました。翻訳者の方の同意を得て、内容の一部をこの場で紹介させていただきます。一日も早く終息に向かいますように。（文責：齋藤）

（以下一部引用）

～ヴォルタ高校の皆さんへ～

“ドイツのアラマン族がミラノに持ち込む可能性があると健康省が恐れていたペスト。それは、実際に持ち込まれ、イタリア中に蔓延し、人々を死に至らしめた・・・”

これは、1630 年にミラノを襲ったペストの流行について書かれた“許嫁”の有名な第 31 章です。見事な先見性と良質な文章。ここ数日の混乱の中に置かれた君たちに、よく読んでみることをお勧めします。ここに全てが書かれています。

外国人を危険と見なし、当局間は激しい衝突。最初の感染者をヒステリックなまでに捜索し、専門家を軽視し、感染させた疑いのある者を狩り、デマに翻弄され、愚かな治療を試し、必需品を買い漁り、そして医療危機。（略）まるで今日の新聞を読んでいるかのようです。

親愛なる生徒たち。規則的な学校生活は市民の秩序を学ぶためにも必要です。（略）専門家でもない私は、その判断の正当性を評価することも、また評価できると過信もしません。当局の判断を信頼し、尊重し、その指示を注意深く観察して、そして君たちには次のことを伝えたいと思います。

冷静さを保ち、集団パニックに巻き込まれないでください。基本的な対策（手洗い・うがいなど）を怠らず日常生活を続けてください。この機会を利用して散歩をしたり、良質な本を読んでください。体調に不備がなければ家にこもっている理由はありませんが、スーパーや薬局に殺到しマスクを探しに行く理由もありません。マスクは病気の人に必要なものです。

感染の広がりが速いのは、発展した文明の結果です。それを止める壁がないことは、数世紀前も同様で、ただその速度が遅かっただけです。（略）それは、人間が作る社会が毒され、市民生活が荒れること。目に見えない敵に脅かされた時、人間の本能は、あたかもそこらじゅうに敵がいるかのように感じさせ、私たちと同じ人々までをも脅威とみなしてしまう危険があります。

14 世紀と 17 世紀のペスト流行時とは異なり、現代の私たちには確実で進歩し続ける医学があります。社会と人間性、私たちの最も貴重な資産であるこれらを守るために、文明的で合理的な思考をしましょう。もしそれができなければ、“ペスト”が勝利してしまうかもしれません。

では、学校で君たちを待っています。

翻訳：Sawabon　出典：ボン先輩は今日もご機嫌　https://bonsenpai.com/